

令和7年度 大阪国税局長賞

村の命をつなぐ

十津川村立十津川中学校 3年 稲田 海緒

私の村は自然豊かな村だ。面積の九割以上が山地であり、村の真ん中にはきれいな川が流れている。そのため、産業には自然と歴史を生かした観光業や森林資源を活かした林業、建設業が行われている。私は、日々私達を守ってくれている自然に感謝している。だが、人口減少により森で働く人々が不足し、林業衰退、森林の荒廃、獣害の多発などの問題が起きている。そこで、そんな現状から国に近年できたのが、「森林環境譲与税」である。森林環境譲与税とは、復興特別税にかわってできた年間一人約千円を徴収する国税である。一人千円だと少なく感じるかもしれないが、令和五年度には国で約五百億円が徴収され、村に約一億三千万円、県に約十億円が分配された。このように集まったお金は、国で決まっている三つの客観的基準に基づき市町村へと分けられている。

私の村では、森林整備や住宅被害が予想される木の伐採、そして小学生を対象とした林業体験の実施など、たくさんの目的をもち活用されている。そんなたくさんの目的の中で私が最も重要と考えるのは森の防災機能を発揮することである。

私達の村は、古くから水害や自然災害の多い地域である。一八八九年と二〇一一年には大きな水害がおきた。この二度の水害では、多くの建築物が倒壊し、山が崩壊した。また、一八八九年の方では、多数の人が亡くなり、移住もした。このような悲惨な出来事が何度もおきていいものだろうか。これ以上たくさんの生命が失われないようにするためにも、私達は次に起きてしまう災害を防がなければならない。私達の村は、ほとんどが山地であり、森と村は直結している。なので、村を守ることは、森を守ることなのだ。ならば、私達は、林業が衰退している現状を受け止め、この税を最大限に活用し森を強くしていかなければならないのだ。

私達の村は、自然そして森そのものである。森は様々なものを私に与えてくれた。今度は私が「森と共存する者」として責任を持ち、森を大事にする番ではないだろうか。私は、将来私達の暮らしを豊かにしてくれるこの森に敬意と感謝をもって納税できるようになりたい。きっとこの税が私達の村と人の命をつないでくれると信じて。